とち鹿追ジオパークの地形とその成り立ち

十勝地方と、とち鹿追ジオパークの地形の形成に至った出来事を見ていきましょう。

この物語は、およそ 100 万年前、十勝地方の北部における大規模な破局噴火から始まります。

この噴火は、多くの火砕流を生みました。この火砕流は辺りを飲み込み、後に火山性物質でできた

十勝平野が形成されました。一部のエリアでは、噴火堆積物が 30 メートルまで積りました。

噴火当時、現在の十勝平野の一部は海に覆われました。火砕流の破片は、このような海水部分を
浅くし、

徐々に湿地帯が形成されていきました。河川は噴火堆積物や沈殿物を山岳部から運び、風が北海道各地の噴火から火山灰を運びました。このようにして形成された湿地帯が、今日の十勝平野を生み出しました。

とち鹿追ジオパークのビジターセンターは、このように形成された土地に建っています。

およそ 4 万年前には、さらなる変化が起こりました。北海道西部での噴火による大量の灰が、十勝

地方の南部に降ったのです。その結果出来た分厚い灰の層が、砂漠のような地形を生み出しました。

同じころ、鹿追の北部では、溶岩ドームが形成されました。

これらの溶岩ドームは、粘性があり高シリカの溶岩を出す、地殻の噴出口の周りに徐々にできたものです。粘性があるこの溶岩は、流れていくことなく、積もってドームを作りました。

次いで、火山活動が続いて然別川をせき止め、然別湖ができました。

然別湖は今よりかなり大きく、北と西にさらに広がっていたようです。

時間が経つと、再び川が流れるようになりました。新たな流れを作り、下流に沈殿物が堆積していく中で、その流れは何度も変わり、徐々に鹿追平野が形成されていきました。

ここビジターセンターの展示は、これらの地質過程を、より詳しく紹介しています。